

# ブルーカーボン 日向市の藻場CO2固定

## 国内初 横浜市が認証、買い取り

日向市は24日、横浜市が海洋資源を活用して温暖化対策に取り組む、同市独自の「横浜ブルーカーボン」のクレジット制度の認証を受けたと発表しました。二酸化炭素の排出量削減や吸収・固定の効果をもつ藻場を買い取り、排出量と相殺する。同市が

自治体間と連携するのは、今回が国内初という。日向市が認証を受けたのは、船場町の東ソー日向が所有する護岸に繁茂するアブラマ場1860平方メートルのブルーカーボン。同市がクレジット申請し、審査完了を経てカーボン・オフセットに活用可能なクレジット(温室効果ガス吸収・固定量0.5二酸化炭素トン)の認証を受けた。

クレジット申請者として、市には年間4千円程度が支払われる予定。市

によると、一部は藻場や環境保全に使い、活動の活発化やブルーカーボンを市民に浸透させる取り組みも計画している。

十屋市長は「市環境基

本計画に基づき、低炭素社会の構築に向けた取り組みを推進している。ブルーカーボンの認知度向上に貢献する活動に取り組むことが重要であると

考えている。認証された量はごくわずかだが、ブルーカーボンの認知度向上につながるから大変意義ある取り組み。この活動が市民のみならず多くの人々、団体、企業の意識啓発や行動喚起のきっかけとなることを期待している」と話した。

ブルーカーボンとは、海洋生態系により吸収・固定される二酸化炭素のこと。森林により吸収・固定される二酸化炭素をグリーンカーボンという。

ブルーカーボンは、地球上の陸上植物に匹敵する量の二酸化炭素を吸収・固定しているとされ、近年、気候変動対策に効果的な新たな吸収源として専門家の間で注目を集めている。

### 記者手帳

2020.1.27

西南戦争最後の激戦地となった延岡市の和田越。とうとうと流れる北川のほとりにそぐだけこんもりした河畔林がある。(逢ひはせなんだかあの和田越で薩摩なまりの落人に。真史跡(古墳)のこの地に野口雨情の碑が建てられて半世紀になる。

△ 碑は文化連盟が建設委員会をつくって募金を呼び掛けた。小冊子には郷土の詩人2人も寄稿している。高森文夫は、雨情の歌が全国津々浦々で広く愛唱されるのは、生涯童心を失わず素朴な表現のなかに深くたたえた日本のところが歌われているからだろう」と書き、渡辺修三は「この和田越の作は傑作だと私は以前より思っていた。これをそのまま右に刻んで建てたならば、各地にある雨情碑よりも一段とすぐれたものになるにちがいない」と趣旨に賛同している。

△ 雨情は、延岡市出身の音楽家権藤田立とのコンビで岡富、東海小の校歌も残している。きょうは雨情忌。郷土ゆかりの詩人へのびたい。(T)

詩人であり、誰もが幼い頃に口ずさんだであろう「七つの子」「赤い靴」などの童謡・民謡の作詞で知られる雨情は、大正から昭和にかけて4度ほど延岡を訪れているという。和田越の歌もその際に書かれたのだろうか。親交のあった教育者の小嶋政一郎は、九州に揮毫旅行した昭和17年の記録が東京雨情会に残り、そこに「各地方で民謡を残した(田中)か(田中)の旅行で書いたものと思いたい」と延岡市文化連盟の小冊子「野口雨情と延岡」に書いている。